

小田原

広

報

まちづくり情報誌



このまち 大好き

西さがみ連邦共和国を楽しむ。



市町村をとりまく国の動き

時代の変化を有効に生かしてほしい

時代とともに変化する社会、そして私たちの暮らし。

地方の時代を迎えた今、各市町村ではお互いのよさを生かした合併が新たなまちづくりのひとつとして全国で盛んに議論されています。

そこで、市町村合併を推進する国の基本的な考え方を、総務省自治行政局の山崎重孝さんに伺いました。

この機会にぜひ合併についてご議論ください



総務省自治行政局行政体制整備室長 山崎重孝さん

なぜ今、市町村合併なのか

地方分権に対する大きな動きを踏まえ、国と地方は対等協力であることが地方分権一括法の中で明示されました。さらに市町村に強くなってもらうため、平成11年8月に合併特例法が改正され、合併によるまちづくりを積極的に応援していくことになりました。

これからは地方が主役であり、市町村が中心になるような体制づくりが必要です。また、今の内閣では構造改革の一環として地方行財政も改革していかなければならないという考えから、市町村の自立を推進していくことになりました。さらに、厚生労働省は2030年は1995年に比べて日本の人口が6%減ると推計していて、現在の市町村の単位のままで大丈夫なのかという問題があります。

合併特例法って、何だ？

「合併特例法」とは、平成11年7月に制定された地方分権一括法のなかで、市町村合併を支援するために改正された「市町村の合併の特例に関する法律」のことです。

この法律では、市町村の合併についてのさまざまな特例措置を定めています。期限は平成17年3月31日までの期限立法で、国はこの法律の期限の再延長はないとの方針を打ち出しています。

どんな特例があるの？

主な特例措置は次のとおりです。

①制度的な支援措置

①住民発議制度

市町村が合併するには、合併の是非の協議や市町村建設計画の策定などを行う合併協議会の設置が必要です。有権者の50分の1以上の署名により、協議会の設置を市町村長に対し請求することができます。

②地域審議会

合併後も住民の声をきめ細かく施策に反映させるため、関係市町村の協議により、旧市町村の区域ごとに、合併後の市町村の長の諮問により審議または意見を述べることができる地域審議会を置くことができます。

②財政的な支援措置

① 地方交付税の額の算定の特例
一般には合併すると経費の削減が可能になるため、合併前と比べて、地方

こうした時代の流れに対応していくためには、市町村を合併して強くたくましい市役所を作ってもらうことが有効だと思えます。

メリットとデメリット

ある意味では痛みも伴う「合併」という選択をした上で、新しいまちづくりに挑戦しようという自治体には、政府も色々な財政措置で応援させていただきま。各自治体が色々な施設をバラバラに作るより、一緒にやればもっと良いものが拠点的に整備できます。小さな役場でも優秀な人材はいらっしゃるわけで、この人材を結集して新しい組織で役割分担を行えば、もっと良い仕事が出来るともなります。財政面でも、個々の団体の10億円を結集して100億円にすれば、今まで視野に入られなかった夢に挑戦できるようになります。自治体も規模が大きくなればなるほど固定的経費は落ちますので、これに施設の有効配置が加われば、サービス水準を落とさずに負担が減り、行政改革にもつながります。

よく「合併して今までの役場がなくなると不便になる」との懸念がありますが、現実には合併した市町村では、役場のあった場所に支所や出張所が置かれることがほとんどです。「合併により地域の歴史や文化が失われていくのではないか」とも言わ

れています。これは合併するしないに関わらず、そうした地域の財産は大切にしていかなければなりません。

メリットを生かそうという意志があれば、デメリットは乗り越えられると思います。

広域連携と市町村合併

市町村が合併しなくても色々なものを共同処理していくことで事務の効率化につながる、という面で「広域連携」という考えもあります。しかし限界もあるわけです。例えば、必ずしも住民に喜ばれない施設を作るときに場所がなかなか決められない、一部事務組合に広域的な事務処理を委ねたときに住民に事務のあり方が見えにくくなるなどとも言われています。

その意味では、生活圏が一緒に日常的に市町村の境を越えて行動している人々がいるのなら、究極の広域行政として合併していただくことが、今申し上げた限界を乗り越える手段だと思っています。

行政圏と生活圏

自治体は非常に大事な単位ですが、人の生活すべてを規律しているものではありません。西さがみエリアであれば、箱根町や湯河原町から静岡へ買い物などに行く人がいて当然ですし、小田原に来る人がいてまた当然です。そういう方々がいらっし

やることも踏まえて、どんな役所を作れば一番良いサービスが提供できるのかを考えていけば良いのではないのでしょうか。

行政の立場と住民の立場

今は法定の合併協議会を作って議論してほしい、とお願いをしています。合併の是非も含めて具体的にテーブルに着き、どういうまちづくりがまちの発展につながるのかを真剣に議論していただきたいからです。

全国的な動きや平成17年3月31日という合併特例法の期限も十分に踏まえて、絶対球をバスターボックスに入ることなく、見送ることのないようにしていただきたいと思っています。「バスターボックスに入って良く球を見てみたが、2030年までこの流れに乗らなくても進んでいける。」ということになるのか、それとも「色々考えてみたら、もう一段飛躍するために合併したほうが良い」という話になるのか、ということですが、

住民が主役の市町村ですが、

まずは市町村の将来を一番考えなければならぬ立場にある首長さん、議員さん、そして職員の方々が真剣に議論していただきたいと思っています。

よく「住民主導でやるべきだ。住民から声が出ないからやらない。」と言われる市町村がありますが、それは違うのではないかと思います。一番情報を持つ

ているのは行政側ですから、十分に住民の方々に話をして啓発して問題意識を持ってもらい、それからどうするかということになつていくと思います。現在すでに色々議論してくださっている住民の方々は大変ありがたい存在ですから、一緒に議論する輪に加わっていただく方々を増やすのは首長さんと議員さんや職員の皆さんの見識だと思えます。特に、青年会議所や商工関係の皆さんは日常の商圏や人の流れにとっても敏感ですの

で、行政はそういう方々の動きに機敏に対応していく必要があります。

都市間競争の時代

各地域によって合併の枠組みは色々と考えられますので、その部分は真剣に議論していただきたいと思っています。

合併を経験することで市役所も議会も住民の方々も、言わば相互に化学変化を起こしてまた変わると言えますし、それを踏まえて次にどうしようか、というところもあるかも知れません。逆に、一度に全部やることでかえって大きなうねりが出て良い、ということならそれも良いと思います。

都市間競争の時代に勝ち抜き、もっと発展していこうと前向きに考えていただいて、今のこのトレンドに乗って真剣に議論してほしいと思います。

全国の合併協議会等の設置状況表
(平成14年4月1日時点)

法定協議会	設置数	65
	構成市町村数	249
任意協議会	設置数	102
	構成市町村数	419
研究会等 その他	設置数	350
	構成市町村数	1,558
合計	設置数	517
	構成市町村数	2,226

ですが、合併後の10年間は合併前の交付税額の合算額を下らないようにするとともに、その後の5年間も額は段階的に縮小されます。

※地方交付税：市町村の財政状況などに応じて国から交付される財源

⑥ 地方債の特例など

市町村建設計画に基づく一定の公共施設の整備などについて、合併特例債という通常より有利な地方債を、合併から10年間財源として見込むことができます。

※合併特例債：まちづくりのための事業費への充当率95%、元利償還金の70%が交付税として措置される

③ その他の特例措置

① 市となるべき要件の特例
この法律に基づき合併する場合に限り、市制施行に必要な人口要件は4万人以上となります。さらに、平成16年3月31日までに合併する場合に限り、人口要件は3万人以上となり、その他の要件は問われません。



今始まる、 新しいチャレンジ！

西さがみ連邦共和国、事業計画を発表！

西さがみ連邦共和国を構成する小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町。観光だけでなく、教育・文化・生活にいたるまで、幅広い分野での連携と交流に取り組む、新しい時代を見据えた試みが始まりました。

西さがみ連邦共和国事務局（小田原市西さがみ連邦共和国推進室内） ☎ 331404

西さがみ連邦共和国の 目指すもの

21世紀は住民の皆さんに一番身近な存在である市町村が、自分の責任において、独自のまちづくりをする「市町村の世紀」です。

一つの行政圏・生活圏を作り古くから歴史的な結びつきがある小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町は、平成13年11月19日に、合併も視野に入れ、広域連携を深めていくため、「西さがみ連邦共和国」の建国を決定しました。これから、まちづくりの主役である住民の皆さんとともに、さまざまな事業やそこで生まれる交流を通して、新たな連携を作り出していきます。

第1回首脳会議の開催

4月26日（金）、小田原市役所に小澤小田原市長・山口箱根町長・三木真鶴町長・米岡湯河原町長が集まり、西さがみ連邦共和国の第1回「首脳会議」が開

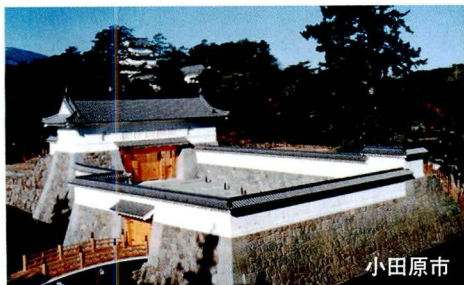
かれました。会議では、組織体制と平成14年度の事業計画が決まり、また1市3町の職員で組織する「西さがみ連邦共和国事務局」の設置と併せて臨時記者会見が開かれました。

が動き出しました。
組織はこうなる！
西さがみ連邦共和国の最高議決機関として、4首長で組織される「首脳会議」を設置。

また、議会議員の代表による「連邦議員会議」や、住民代表による「連邦住民連絡会議」の設置も検討します。

平成14年度に取り組む事業

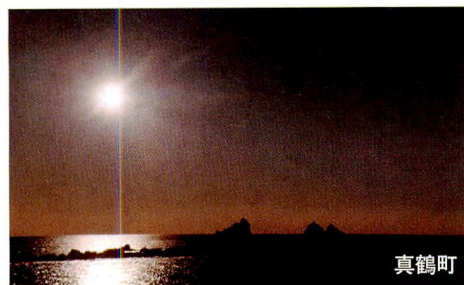
西さがみ連邦共和国の最初の目標は、圏域の住民が一体感を共有できるような相互交流を行うことです。それぞれの市町が持つ豊かな自然環境や歴史・文化を生かし、次の3つの柱のもとに事業を展開します。



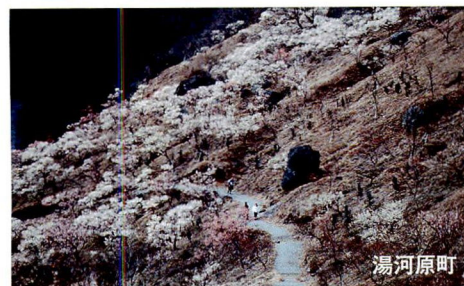
小田原市



箱根町



真鶴町



湯河原町

1 広域交流の推進

① 住民交流事業の実施

それぞれの市町で開かれるウォーク大会・スポーツ教室や、体験学習・セミナーなどの身近なイベントに相互参加できるようにし、交流の機会を増やします。

② 低公害車フェアの開催

豊かな自然を保全していくため、圏域内への低公害車の普及を進めます。また、低公害車を利用した観光の可能性を研究するためのシンポジウムや低

公害車の試乗・展示を行います。

③ 建国記念ツデーマーチの開催

自然や歴史・文化にふれながら、歩く喜びを感じ、交流と友情を深めるため、ウォークイベントを開きます。

④ 職員研修・人事交流

地方分権時代の職員に求められる政策立案能力を高めるための合同研修を行います。すでに4月1日から新しい広域行政を担う人材を

育てるため、相互の人事交流を行っています。

2 広域連携の強化

① 総合ポータルサイト（9ページ）の開設

圏域の観光・イベント情報を発信するホームページ「西遊季」を開設しました。民間情報や行政情報などを含む西さがみのコミュニケーションページです。

② フィルムコミッション連絡協議会を設立

圏域の魅力や良好なイメージを発信するため、映画・テレビなどの口々に協

力する組織「(仮称)西さがみフィルム・コミッション」を作ります。

③ 中国人観光客誘致事業

大幅に訪日観光客の増加が予想される中国を対象に、旅行業界などの状況調査や誘客のための市場開拓を行います。

3 新たな地域づくり研究と情報提供

① 広域連携と市町村合併に関する調査・研究

地方分権時代に対応する行政体制の確立のため、連携の強化と事務事業の

協働化の方策を探ります。また、市町村合併に関する調査・研究を行います。

② 広域連携フォーラムの開催

新たなまちづくりを住民の方も一緒に議論していただくため、フォーラムを開きます。

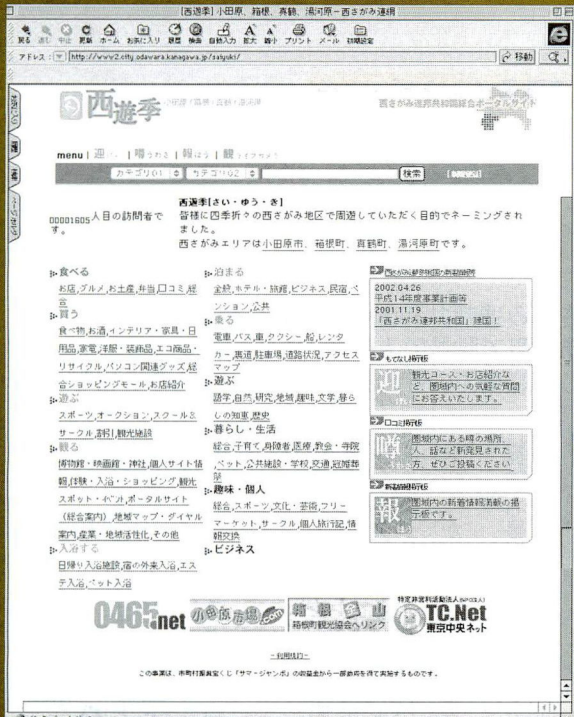
③ 情報の提供

西さがみ連邦共和国が行う調査・研究の成果や、国・県の動きなど、広域連携や市町村合併への議論のもととなる情報をさまざまな方法で住民の皆さんに提供していきます。

西さがみ連邦共和国総合ポータルサイト

「西遊季」スタート！

問い合わせ先
TEL 331264



URL
<http://www2.city.odawara.kanagawa.jp/saiyuki/>

インターネットを活用して、圏域内の観光や商業などの情報提供を目指すホームページ。③ポータルとは「玄関」の意味で、西さがみの玄関として利用できるように電話帳やテレビ番組表のような機能も入れ、情報やサービスを簡単に引き出せるように工夫しています。

「主な機能」

① 検索エンジン

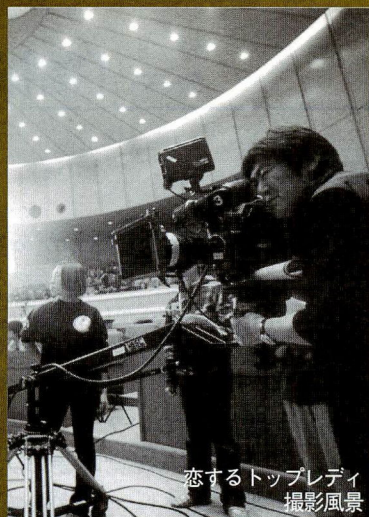
圏域内の各種ホームページを検索する機能です。

② 電子掲示板

共和国に興味を持つ人が気軽に質問し、見た人が答える交流機能。「迎」もてなし、「噂」口コミ情報、「報」新着情報、の3つのコーナーがあります。取っておきの情報を、皆さんもお寄せください。

「(仮称)西さがみフィルム・コミッション(FC)」の設立

問い合わせ先
TEL 331261



恋するトップレディ 撮影風景

撮影に必要なさまざまなことがらをサポートします。

撮影地としてのイメージアップやそれによる観光客の誘致も期待できます。さらに、ロケ隊の宿泊、飲食、資機材の購入やレンタルなどによる地域への経済効果もあります。今年放送されたフジテレビ「恋するトップレディ」では、小田原市に約600万円もの直接的な経済効果がありました。



～市町間人事交流職員インタビュー～

西さがみ連邦共和国の 橋渡し役を命ずる！

西さがみ連邦共和国の連携を強めるため、4月から1市3町で職員の人事交流を行っています。新しい職場での今の気持ちを語ってもらいました。

(写真右から)

箱根町から小田原市観光課へ

小田原と箱根はもともとある種の一体感がありますが、表面上の交流も多かったような気がします。僕がまちの橋渡し役になれるように頑張ります。

湯河原町から小田原市防災対策課へ

地震などの災害は、市町村単位で起きるとは限らないので、防災の仕事は交流がプラスになると思います。市民の皆さんという話をしていきたいです。

真鶴町から小田原市環境総務課へ

真鶴も景色の良いまちですが、小田原でも良いところをいっぱい発見したいです。西さがみはもつと魅力が引き出せるはずだから、とにかくいろいろな経験していきたいですね。

小田原市から真鶴町下水道課へ

真鶴町は職員が少ない分、情報伝達が早くて驚いています。景色も良く、職員の方もみな気さくです。組織は人で動き、人がまちを動かします。私も少しでも役に立ちたいです。

小田原市から箱根町産業施設課へ

はつきり言って、まだ足手まといかも知れませんが、早く慣れてきつちり仕事をしたいです。箱根は素晴らしいところですので、自分も必ず何かを残していきたいと思っています。

小田原市から湯河原町防災課へ

湯河原の魅力を再発見したいです。防災は住民との対話が多いので、本当の意味での交流ができると思っています。今度、合同防災訓練もやるので、うまくまとめてみたいです。

みんなきつと、西さがみ連邦共和国の新たな魅力と可能性を引き出してくれるでしょう。これからの活躍が楽しみです！

教育、私はこう思う！

静かなる教育論議にぞくぞくご意見。

今月は、福祉と教育です。今年の夏も暑くなりそうですが、あなたの“福祉のこころ”も熱く燃えているでしょうか？

☎教育総務課 ☎33-1671

教育、私はこう思う！
vol.7

テーマ「福祉と教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

奉仕活動について

子どもの奉仕活動を論ずる前に、大人が率先して奉仕活動をすべきで、それを抜きに、子どもにさせるとはおこがましい。大人も一生のうち、ある期間は社会奉仕活動を義務づけ、ボランティア社会を構築するべきである。

老いについて

人は、必ず老いて働けなくなるという当たり前のことを、社会全体の問題として認識すべき。

思いやりについて

朝の通勤通学の時間、細い道で進行方向に車椅子の子どもが見えた。車を運転していたので、しばらく待たなくてはいけないと思ったが、すぐに周りの子どもたちが一緒になって、車椅子の子を安全な場所へ移動させた。子どものころから身体の不自由な人と接していると、何も教えなくても優しい心が身につくものだ実感した。

介助について

介助をしていると何ものにもかえら

れない喜びと感動があります。気持ちが通じていると感じたとき、恥ずかしそうに投げかける笑顔。私が優しい気持ちになっていると思う一瞬です。

親切について

以前、視覚障害の人が横断歩道を渡るときに、子どもが声をかけ、手をさしのべて逆に断られたことがありました。子どもの優しい心がとても傷つき、親切心という気持ちも難しいということを痛感させられました。

皆さんも、このコーナーを読んだらその思いを忘れないうちに近くの人に話してみましょう。それが教育論議への第一歩となるのです。

支所・連絡所などに置いてある「意見カード」でのご意見もお待

ちしています。小田原市ホームページの「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」でも受け付けています。

投稿フォームアドレス

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/index.html>

チュラビスタ市 姉妹都市提携 二十周年公式訪問記

文 小澤良明

昨年、本市は米国チュラビスタ市との姉妹都市提携二十周年の節目を迎えた。例のテロ事件もあって今年四月に、私と議長は懸案だった二十周年記念の公式訪問を果たした。

私にとっては、三度目で、旧知の皆さんや初めてお逢いする方々も含めていつも変らない開放的であたたかい歓迎ぶりに、豊かな気持で一杯になったチュラ市訪問であった。

到着早々、住宅団地開発を視察、広大な丘陵地の大規模開発現場に米国景気の好調ぶりを実感。市の技術陣から木造三階建て集合住宅の耐震構造の現説を受け、地震多発地帯の故というが、こんなにも頑丈な補強が必要なのか、と驚く。

その夜のチュラ市主催の歓迎宴には、シャリー・ホートン市長始め市関係者、市議会議員全員、ルーデス・セピリア国際友好親善委員会（IFC）会長、テリー・トーマス小田原友の会（FO）会長やメンバーの皆さん等、市の有

力者殆んどが出席されて八十名もの皆さんにより賑やかに開催された。少し前から市長が州議会議員に共和党から立候補するらしい、とは伝え聞いていたのだが、宴の最中も周囲に盛んに気を使ってテーブルをまわっている様子を見て、同じ様に選挙の洗礼を受ける身としてその気持ちに痛いくらいに良く分って議長と微笑を交した。次期市長の有力候補らしい（？）議員さんとも交友を深めることができて本当に良かった。



ホートン市長(右から2番目)とチュラ市議会議員の方がた

「IFC」と「FO」という二つの市民団体が本市との交流にかかわりを持っているのだが、この両団体との複雑な調整や姉妹都市交流の今後の推進については、何でも直接相談して欲しい、というホートン市長の明確な回答も得

られて、先行きにいろいろと心配もあっただけに正直ホッととした。更にこの秋に訪問予定の本市市民交流団も喜んでお迎えする、と表明していた。

翌日、ホートン市長の案内で市議会議場を訪れると、そこでは「CAST」（市民被災者支援ボランティアの略語）の十二日間の研修講座の七十名程の卒業式が行われていた。刑事事件や交通事故、火災等の被災者やその家族のお世話をしたり心の相談にまでつたりするのだという。流石にボランティア先進国と大きな感銘を受けた。

ベイサイドで行われた市主催の「アート市民フェスティバル」にも参加した。燦々たる陽光のもと、多くの市民団体がステージで踊り歌い、広場では空手のデモンストレーション、周囲は沢山の手芸品や飲食物のテントが並び、それは賑やかなものであった。「FO」のテントではかき氷や手作りの品々が販売され、ハッピー姿のメンバーと何時の間にか私達も一緒になってはしゃいでいた。

二十年の交流の積み重ねを互いに讃えあい、今後の友好交流を改めて誓いあった短い濃密で有意義な姉妹都市訪問であった。

ロサンゼルス総領事館、パ

サデナ市と駆け足で訪れ、今回の訪米のもう一つの大きな目的である電子自治体視察、"シリコンバレーのハート"と言われるサニーバール市の公式訪問をした。



フレデリック・M・フォーラー市長との会談で特に印象に残ったのは、電子社会に乗り得ない人々への対応が最大の課題だ、という言葉で、我が国ではトップレベルにありながらも、こうした情報化社会を拡充できるかという本市の現状だけに、その大きな格差を実感させられた。エリア内にあるスタンフォード大学やマイクロソフト社、ロッキード社等との産学連携も成功の大きな要因と聞いて、好環境を大変うらやましく感じたものである。

姉妹都市二十年、発展著しいチュラビスタ市、そして電子自治体として米国最先端のサニーバール市。世界は広い。学ばべき施策、目標とするまちは果てしなく多い。今回の訪米の私の焦りにも似た卒直な思いである。

小田原市ホームページ

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/>
「昨年の観光ガイド的なホームページから比べると、バランスが良くなった。レベルは高いが、改善の余地あり」との講評。

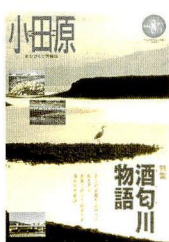
過去の受賞

平成12年入選
(ホームページ部門新設の平成12年から2年連続)



広報おだわら

平成13年8月1日号
特集 酒匂川物語
「記事に多面性があり、広報誌ではないような作り。『おだわらいふ』がお知らせ記事なので、そのぶん1日号は読み物にさける良い作り」との評価でした。
過去の受賞 平成8年2席/平成9年5席/平成11年佳作/平成12年2席



市民の皆さんと小田原市との絆をつくる大切な役割を担う広報おだわらと小田原市のホームページが、昨年に続き広報誌部門とホームページ部門で2年連続受賞という形で評価されました。これからも今まで以上に皆さんに愛される広報活動を目指します。

問 広報広聴室 331261

全国広報コンクールで
小田原市が大活躍！
平成14年全国広報コンクール
広報おだわら 6席！
ホームページ入選！

小田原市は「戦略会議」で どう変わる？

シリーズ2

小田原市がさまざまな重要課題に取り組むために設置した「5つの戦略会議」の概要をお知らせするシリーズ第2弾。

5月1日号のシリーズ1では、「企業誘致戦略会議」をお伝えしましたが、今回は「土地活用戦略会議」と「IT戦略推進会議」の概要をお知らせします。

問まちづくりデザイン課 ☎33-1379

「土地活用戦略会議」

急激な社会変化に適合した土地活用を考える

人口と産業の動向はもちろん、小田原市の将来を大きく左右する土地利用については、昭和45年に決定された「線引き」によって、その基礎が築かれました。

当時は、米の生産調整や市街化区域内農地の宅地並み課税などが社会問題になっていて、線引きには賛否両論が出されました。しかし、10年間で都市基盤を重点的に進めるための整備見通しや財源の見込みとともに、地権者から「この場所は市街化調整区域にして欲しい」という強力な意思表示などもあり、市街化区域の割合が県下の他市町村に比べて小さく設定され、その後数回の見直しを経て、現在に至っています。

市では、総合計画に基づき、豊かな自然資源や多くの歴史・文化資源を生かした、時代に対応したまちづくりを目指しています。が、限定された市街化区域のもとでは、思うように土地活用できない部分が常に生じています。

また、市町村には、近年の地方分権化により、地域の皆さんとともに、個性豊かなまちづくりを目指していくことが求められています。

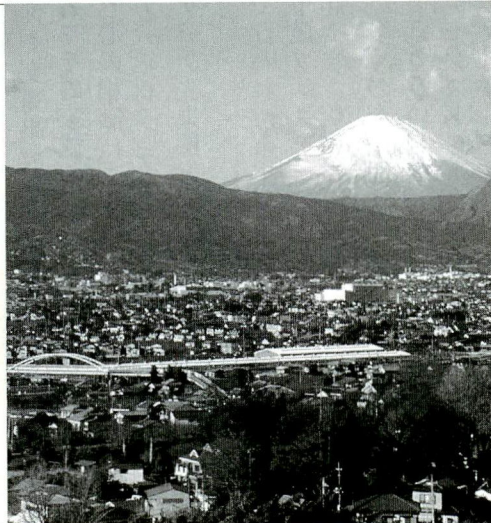
「土地活用戦略会議」では、魅力と活力にあふれるまちづくりを進めていくため、小田原の将来のあるべき姿の方向付けを次のとおり提案しました。

※「線引き」：無秩序な市街化を防ぎ、計画的に市街化を進めるため、積極的に開発・整備する市街化区域と、基本的に開発を認めない市街化調整区域に市域を区分する都市計画制度

●土地利用の基本方針

市の総合計画「ビジョン21おだわら」では、市域を次の3つに大別して、個性を生かした土地の有効利用を進めています。

- ①自然環境の保全を図る地域
- ②農林業的土地利用を図る地域
- ③都市的土地利用を図る地域



●土地利用ゾーニングの提案

市域全体については、3つの「土地利用の基本方針」を守り支えるために必要な4つの「土地利用ゾーニング」を提案しました。

- ①自然公園地域を中心とした、森林や水源を保全する緑・水源保全ゾーン
- ②農業生産環境、田園景観を保全する田園環境保全ゾーン
- ③秩序ある土地利用のもと、地域の活性化と環境と景観向上のため、地域の特性を生かした計画的な整備を促進・誘導する都市・田園共生ゾーン
- ④既存の市街地や周辺市街地を含む市街地ゾーン

●市街地の土地利用

このうち、市街地ゾーンについては、早急な課題対応が必要とし、詳細な方針を設けました。

①「活用」と「保全」の土地利用

小田原駅・小田原城址・商業地が近接する都市中心部では、交流・定住人口の増加による活性化が課題です。

そこで、近接した特性を生かし、小田原駅を中心としたにぎわいを創出する「活用」と城址などの歴史的環境を守る「保全」の土地利用ゾーニングを検討します。

②土地利用の規制・誘導

川東地区では大規模な土地利用転換が進んでおり、商業施設の立地に伴う地域環境への影響が懸念されています。そこで、安全で快適な地域環境の実現を目指すために、「土地利用の規制誘導策」を検討します。

③農地の多面的機能の活用

緑地空間へのニーズの高まりから、市街化区域においても緑豊かな生活空間の確保・創造が求められています。そこで、農地の持つ生産だけの機能ではなく、環境面での考え方や機能を十分に活用できる体制を検討します。

●今後の取り組み

土地利用制度上のさまざまな調整と詳細な検討を進め、市民の皆さんとともに、これらの実現化を図っていきたいと考えています。

「IT戦略推進会議」

暮らしの質を高める情報化施策を検討する

ITを使ったさまざまな行政サービスを提供する電子自治体の実現を目指して、平成16年度までに、次の情報化施策に取り組んでいきます。

「マルチライフ・シティ・おだわら」
いつでも、どこでも、だれもが
便利に

●基本目標

① 快適で利便性の高い市民生活の実現

いつでも、どこでもITを活用して必要な行政サービスが取得できるほか、福祉・医療、教育、防災対策の充実、産業の活性化など快適で利便性が高く、安心して市民が暮らせる情報環境を整備します。

② 身近な市政の推進と市民参画の拡充

市民の市政に対する意見を把握する仕組みを作り、市民と行政の協働によるまちづくりを実現します。

③ 高度で効率的な行政運営の確立

情報の共有による会議などの効率的な運営のほか、知的資産を共有するシステムを構築することで、高度で効率的な行政運営を確立します。

④ 電子市役所実現のための基盤整備

国や県、他市町村との連携を図りながら、^(※1)総合行政ネットワーク(LGWAN)などの構築を進め、電子自治体に必要な機能を整備します。また、情報格差の是正に必要な情

報環境を整備していくとともに、すべての市民がITを活用した行政サービスを受けられるようにするため、地域に必要な人材を育成します。

平成14年度に行う
事業・サービスの内容

平成14年度からインターネットを活用したさまざまな市民サービスが動き出します。

① 各種施設の予約や各種申請手続きのオンライン化の検討

施設予約などの各種行政手続きがインターネットで行うための環境整備について検討します。

② 生涯健康づくり情報システムの構築

将来的に自らの健康度が手軽に確認できるようにするための基礎システムを構築します。

③ パーチャル市民活動サポートセンターの開設

ボランティアに関する情報交換や相談をインターネットでできるようになります。

④ マルチ型災害対策システムの構築

災害時の安否、被災地、ボランティア情報などを把握できるようにします。

⑤ 投票型アンケートシステムの構築

市政や生活に密接な問題などについて、携帯電話などから簡単に応答できるようにします。

⑥ インターネットライブ映像の活用

四季折々の小田原の映像、市内の交通状況などをインターネットで提供できるようにします。

⑦ 広域ポータルサイトの開設

西さがみ連邦共和国の事業のひとつとして、西さがみ地域(小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町)の広域総合^(※2)ポータルサイトを開設します。

URL

<http://www2.city.odawara.kanagawa.jp/saiyuki/>

⑧ 住民基本台帳ネットワークの整備

転入・転出などに伴う手続きを簡略化するため、個人認証を簡易にできる住民基本台帳ネットワークを整備します。

⑨ IT基礎技能修得のための支援事業の実施

IT講習を実施します。



※1 総合行政ネットワーク(LGWAN): 地方公共団体を相互に接続する行政専用のネットワークによって、地方公共団体相互のコミュニケーションの円滑化、情報の共有による情報の高度利用を図ることを目的としている。

国は、2001年度までに都道府県、政令指定都市と接続を行い、2003年度までにすべての市町村における接続を要請している。

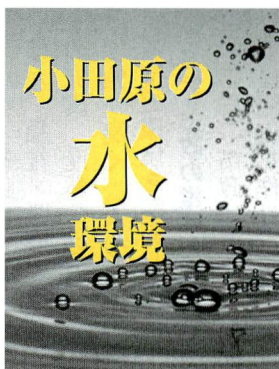
※2 ポータルサイト: インターネットホームページを見る際に、最初に入るホームページ。広告価値が高いために注目されている。

6月5日は環境の日！ 6月は環境月間です。

見直そう今までの暮らし
考えようこれからの暮らし

「環境の日」は、1972年6月5日からスウェーデンで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。日本では6月を「環境月間」ともしています。かつての公害問題に代わり、日常の人々の生活や事業者の事業活動が積み重なって引き起こす地球環境問題がクローズアップされています。地球に暮らす人間の責任として、地球にやさしいライフスタイルで行動しましょう。

環境保全課 ☎331481

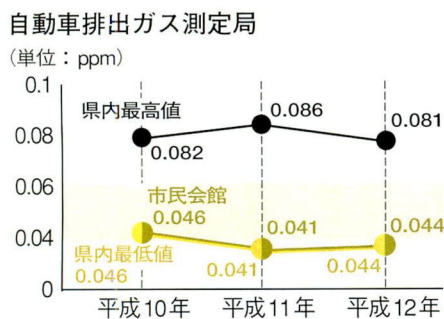
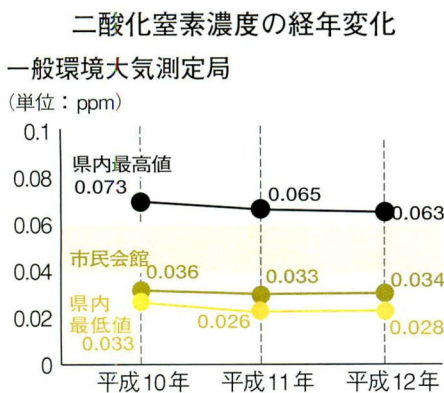
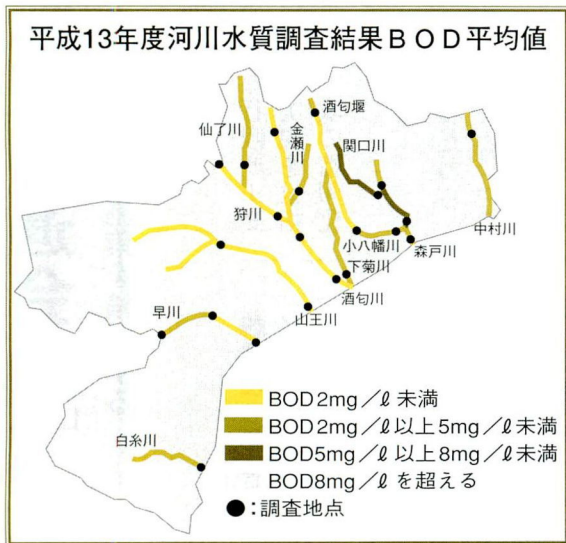


のBOD(基準値2〜3 mg/ℓ以下)に照らすととても良い水質を維持していることを示しています。また、相模湾のCODも1.1〜1.2 mg/ℓと相模湾のCODの基準値2 mg/ℓを下回り、良好な水質と言えます。

市では、法律に基づき水質の監視や調査を行っています。水質調査は30項目以上の分析を行います。その中で、河川水はBOD(生物化学的酸素要求量、海域はCOD(化学的酸素要求量)を代表的な水質指標としています。

酒匂川以外の市内河川も、昨年度は、すべての基準地点でBODの環境基準を満たしています。

昨年度の調査結果では、酒匂川のBODは飯泉取水堰上流付近で0.8 mg/ℓ、酒匂橋付近で1.0 mg/ℓでした。これは、酒匂川で

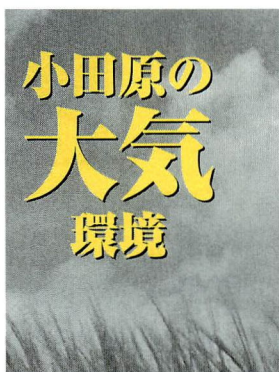


環境基準: 0.04ppm から0.06ppm までのゾーン内、またはそれ以下であること。

小田原の大気状況は、市役所で一般大気環境を、また市民会館で自動車の排気ガスの影響のある地域の環境調査

を、それぞれ県が行っています。また、大気中のダイオキシン類調査は、県と市によりそれぞれ市役所、消防本部で実施し、継続的に監視しています。平成12年度の調査結果では、いずれも環境基準を満足し、特に市民会館での調査結果は県内の自動車排出ガス測定局中で一番きれいな地点となっています。

(平成13年度の結果は近日発表)



市ではこうした取組みを宣言していただける方を募集しています。また、あなたのライフスタイル度をチェックするため「環境家計簿」に挑戦しましょう。

7月19日(金)までに電話で。

環境保全課 ☎331481

●使っていない部屋の照明はこまめに消します。●歯を磨くときは水はコップにくんで磨きます。●お風呂の残り湯を洗濯や散水などに使います。など

●駐・停車中はエンジンを止めます。(アイドリングストップ) ●排水口の生ごみ受けにはごみをためず、三角コーナーには水切り袋・ろ紙をかけます。●使っていない部屋の照明はこまめに消します。●歯を磨くときは水はコップにくんで磨きます。●お風呂の残り湯を洗濯や散水などに使います。など

エコ・アクション
(環境にやさしい行動)



小田原の川や海、大気をはじめこの地球を守るため、私たちにもできることがあります。身近なところから、環境への負荷を少なくする生活スタイルを実現していきましょう。

「地球を守るためのおだわら市民エコ・アクション」に挑戦!

小田原メダカをみんなで守っています！

メダカは全国的に数が減り、絶滅するおそれのある生物のリスト（環境省のレッドリスト）に指定されていますが、小田原には今も農業用水路に野生のメダカが生き続けています。市では、市民の皆さんとともにメダカの保全に取り組んでいます。

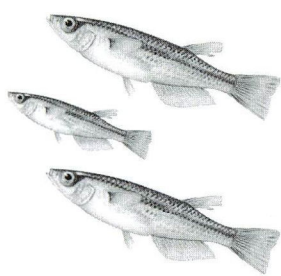
環境保全課 331481

「メダカの保全に係る基本方針」できました！

市では、小田原メダカを守り、この地域に関連する開発や改修計画を整理した「メダカの保全に係る基本方針」を策定しました。

- この基本方針では、
- ①メダカが住めるような自然環境の保全意識の啓発を行う。
 - ②生息地域の開発や改修の際には環境破壊を必要最小限とする。
 - ③生息環境が失われる場合には代わりとなるビオトープづくりなどを考える。

などの方策を提案し、自然環境の保全と事業との調和を図ることを目的としています。



私たちがメダカを繁殖・育てています！ メダカのお父さんお母さん制度

東富水小学校6年生の
お兄さんお姉さん



「最近、小田原メダカが減っていると聞いて、それは自分たちのせいかも知れないと思い、総合学習の時間を活用してメダカを増やすことにチャレンジしました。みんなで世話をしてメダカがどんどん増えていくのはとてもうれしいです。小田原に住む人たちが、もっと小田原メダカのことを知ってくれればいいな。」

※メダカのお父さんお母さん（お兄さんお姉さん）制度：小田原メダカの種の保存と系統維持のため、家庭や学校など市内約300箇所メダカの飼育が進められている。昨年は、当初配布した900匹のメダカが4,500匹に増えた。

県内で唯一のメダカの 自生地を守る！

沖津昭治さん（桑原）



「メダカや川の生物が減ったと感じてから、一日一回は川の様子を見ています。雨の翌日は流れてきたゴミを取り除いたりして、何より水の管理が大切。でも、環境問題に取り組む、なんて大げさに構えてはいないよ。ただ、川で子どもたちが自由にメダカを捕ったりできるといふ当たり前の自然を、いつまでも残したいだけなんだ。」

応募条件

メダカのお父さんお母さん

育てるのは、いたって簡単。あなたも小田原メダカのお父さんお母さんになりませんか！

募集



市内在住または市内事業者の方で、「小田原メダカのお父さんお母さん制度」の4つの約束（大切に育てる、勝手に捨てたり放流したりしない、他の種類の魚と一緒に飼育しない、人に譲らない）を守れる方。一世帯につき1申込まで。年齢不問。中学生以下は、成年者の承諾が必要。（多数抽選）

申込方法 はがきに、郵便番号、住所、氏名、年齢、勤務先または学校名、電話番号を書いて郵送
申込 6月21日（金）までに（必着）〒250-8555
小田原市役所環境保全課
「小田原メダカ係」
メダカ手渡し日
7月20日（土）10時～正午
場所 市役所大会議室（予定）
※当日は、「メダカミニセミナー」も開催します。

平成14・15年度小田原市体育指導委員名簿

中央ブロック			北部ブロック		
緑地区	岸 藤久	廣 芳成	桜井地区	釘持 明	美 代子
	遠 杉山	芳 喬彦		片 山	美 正文
新玉地区	鈴木 昭宏	宏 晃子		佐 宗山	正 典行
	宮代 城所	益 一	富水	角 小笠	原 悦子
万年地区	松本 健一	由 善		木 村	美 智子
	岡崎 和	一 善	東富水	金 岡	敏 二郎
幸地区	栗山 茂男	ハツエ		種 大沢	重 満子
	土屋 三橋	博		三 浦	渡 延子
十字地区	神永 四郎	晋也	川東第一ブロック	設楽 正	義 光男
	芦川 勝	景子	豊川地区	榎原 柳	山 温子
山網地区	栗川 良	邦治		村上 隆	弘 孝之
	中川 久治	ミネ子	上府中地区	翼 村	尾 和枝
	湯川			吉田 大	柳 幸子
足柄ブロック			下曾我地区	伊与 川	久 保 孝行
足柄地区	川口 博一	由美子		神 保 泰夫	
	大平 柳	道雄	曾我地区	鳥居 和	男 健子
二川地区	原 邦典	光 夫		高橋 正	三 郎
	宮本 光	博 茂	下府中地区	植田 飯	山 幸一
芦子地区	本多 昇	元 久美		飯山 大	川 山田
	府川 明	城 光	川東第二ブロック		
久野地区	倉石 喜七	郎 かつ子	酒匂地区	内田 忠	三 郎
	斎藤 早	淳 三孝		天野 清	太 幸子
	長尾			松本 大	竹 幸子
西部ブロック			国府津地区	曾根 小	林 天野
大窪地区	高木 幸春	茂 三		小野 天	野 昌信
	服部 谷	江 明美	前羽地区	小野 澤	剛 清美
早川地区	青木 山	口 太成		遠藤 中	村 梅田
片浦地区	大浜 真一	裕 二夫	橘北地区	大隅 飯	沼 林

平成14・15年度の体育指導委員

本市では、地区におけるスポーツ振興の担い手として、90名の方々に体育指導委員と

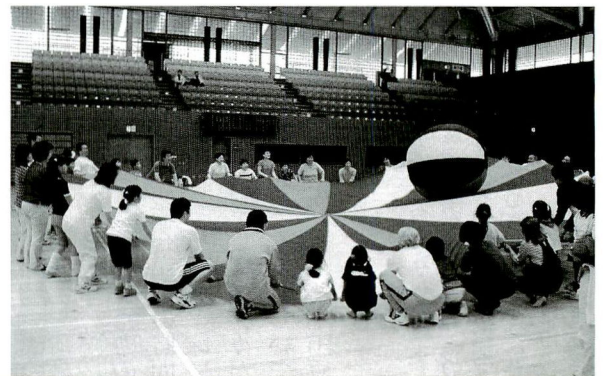
して委嘱しています。
任期 平成14年4月1日～
平成16年3月31日

やってみんべえ！

みんなのスポーツ

お子さんからお年寄りまで、年代・性別にかかわらず楽しめるさまざまなニュースポーツを用意しました。「遊び方・使い方がわからない！」という方も大丈夫。各地区の体育指導委員が、ていねいに使用方法を指導します。

問 スポーツ課 ☎38-1149



今話題の
ニュースポーツ紹介！

○パラシュット

直径9mの虹色の布を20～30人で囲み持ち、息をそろえて動かします。150cmの巨大なボールを飛ばすプッシュアリー、付属の6個の小ボールと組み合わせてのローリングゲーム、アウトゲームなど、多彩な楽しみ方ができる新しい形態のスポーツです。健民祭や地域でのニュースポーツ大会などに、イベントの活性化にぜひご活用ください。

(貸出可)

市と市体育指導委員協議会
でお貸しできる
主なニュースポーツ器具

利用には予約が必要です。利用料のかかる種目もあります。(1種目1回500円)これ以外にもありますのでお問い合わせください。

○グラウンドゴルフ

木製スティックで樹脂製のボールをホールに入れる、簡易なゴルフゲームです。

○キンボール

最近TVなどでも評判の、120cmの巨大ボールをサーブ・レシーブするチームゲームです。

○ベタンク

手玉を的玉にいかに近づけられるかを競います。室内専用のものもあります。

○スポーツ吹き矢

軽くて安全な特製吹き矢を的に当てます。

○ティーボール

スティック上のボールを打つ、簡易な野球です。

○ピロポロ

室内で行うソフトホッケー。

○アキユラシ

フライングディスクをゴールに投げ入れる正確さを競います。

○ディスクッター9

9分割された的すべてにフライングディスクを当てます。

○ターゲットバードゴルフ

バドミントンのシャトルに似たゴルフボールを打つニューゴルフ。

男女共同参画週間 6/23～29

特別講演会
「小田原で
生きた女性
教師たち」

女性行政課

☎331725
FAX 331286

時の流れのうねりの中に、その女性たちがいました。ひとつひとつ、慎重に、力強く、堂々と。現在、家庭、地域、職場での男女の性別による役割分担や、生き方などが、大きな課題となっています。

我がまち小田原の先人たちの足跡に思いを馳せてみませんか。

日時 6月23日(日) 13時～15時

場所 マロニエ

定員 50人・先着順

講師 湯山厚さん
(元横浜国立大学講師)

託児 2歳以上就学前まで(予約制・おやつ代100円)

申込 電話・ファックス・はがき・Eメール。

Eメールアドレス

iose@city.odawara.kanagawa.jp

〒250-0855

小田原市役所女性行政課

※6月24日(月)～28日(金)まで、市役所2階展示ロビーで男女共同参画に関する情報提供や女性団体の活動状況などのパネル展示をします。

受け継がれる小田原の文化財

国の登録有形文化財に新たに5件が登録へ

明治時代以降の近代文化財は、その多くが消滅の危機に面しているため、平成8年に登録有形文化財制度ができました。小田原市内では、今回新たに店舗など5件の建造物が登録されることになりました。

問文化財保護課 331717

①山月(旧共寿亭)

所在地：板橋



壊した旧店舗の材料を一部用いて大正14年頃に完成したと伝えられています。現在の店舗は軒出も大きく、柱など主要部材に樺材を用いており、重厚な造りであった旧店舗の風格を継承しています。

③だるま料理店

所在地：本町2丁目



だるま料理店は、関東大震災後の大正15年に網元でもあった2代目廣澤吉蔵により建築されました。材料には松、杉などの良材が使われ、一階店舗入口の唐破風造りのポーチに特徴があり、また東側の玄関ホールや2階座敷に上が

④千世倭樓(旧菊地家住宅)の主屋と土蔵(合計2件)

所在地：風祭



る階段などにアールデコの影響が見られます。

千世倭樓は、『森林王』と呼ばれた秋田県



の菊地家の旧住宅の主屋と土蔵を平成12年に現在地に移築・改修して店舗としたものです。建てられたのは明治中頃ですが、建設に20年を要したといえます。土蔵の内部の木部はすべて漆喰仕上げです。

約5,500年前の生活や文化を垣間見る

羽根尾貝塚出土品の数々「発掘された日本列島展」に展示

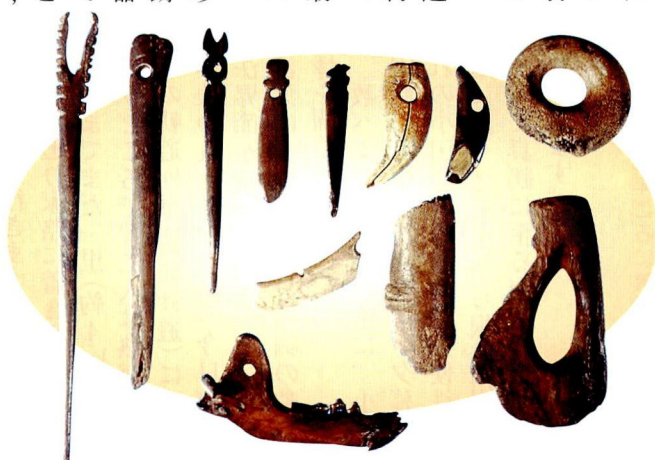
問文化財保護課 331717

文化庁が中心となって開かれる「発掘された日本列島2002新発見考古学速報展」に、羽根尾貝塚の出土品が多数出品されます。

この展示会は、全国から41遺跡、写真パネルなどを含めて約500点が選定されましたが、羽根尾貝塚からは合計70点と最も多い点数が出品され、展示の目玉になっています。

羽根尾貝塚は、全国的にも珍しい低湿地に残された貝塚遺跡のものです。そのために、土器や石器のほかに、一般の遺跡では見られない多数の木製品などが出土し、縄文時代前期(約5,500年前)の豊かな生活や文化を今日に伝えてくれることから、有識者からも高い評価を受けています。

※羽根尾貝塚：大磯丘陵から派生する丘陵の最先端の埋没地形に位置する。羽根尾工業団地建設に伴い、平成10・11年に発掘調査が行われた。多数の貝に混ざり、カツオ、イルカやシカの骨や歯、クルミなどの縄文人の食べかす、関東地方では最古の漆塗りの木製容器、丸土船を漕ぐための櫂オールなどが出土している。



「発掘された日本列島展」

日時 6月15日(土)～7月14日(日)
月曜休館
場所 東京都江戸博物館
(その後全国6か所で開催)
☎03-3626-9974



「真鶴」

志賀直哉

岩波書店



尾崎一雄と志賀直哉(右)

伊豆半島の年の暮だ。日が入つて風物総てが青味を帯びて見られる頃だつた。十二三になる男の児が小さい弟の手を引き、物思はし気な顔付をして、深い海を見下す海岸の高い道を歩いてゐた。

(略)

真鶴の漁師の子で、彼は色の黒い、頭の大きい子供であつた。

(略)

其日彼は父から歳暮の金を貰ふと、小田原まで、弟と二人の下駄を買ふ為に出掛けた。所が下駄屋へ来るまでに彼は不図、或唐物屋のシヨウインドウで其小さい水兵帽を見つけた。彼は急にそれが欲しくなつた。其処で後先の考もなく、彼は財布をはたいて了つたのである。

(略)

然し松飾りの出来た賑かな町を歩いて居る内に彼は何時かそんな事を忘れて、そして前から聞かされて居た二宮尊徳の社へ詣でるつもりで、其方へ歩いていくと、或街角で、騒々しく流して来た法界節の一行に出会つた。

(後略)



志賀直哉(1883~1971)は、「網走まで」を雑誌「白樺」の創刊号に発表し、「白樺」同人として活躍しましたが、そのとぎすまされた鋭い感覚や時に人間を突き放すような非情な描写は、理想主義・人道主義を高らかに標榜した武者小路実篤ら「白樺派」主流の作家とは異質の傾向を持っています。

代表作としてあまりにも著名な「暗夜行路」が、志賀唯一の長編であることから明らかになように、短い作品にその優れた才能を示し、芥川龍之介と並んで、日本の短編小説の規範といわれる地位を築いて「小説の神様」といわれるようになりました。

また、小田原出身の私小説作家尾崎一雄が、文学・人生の師と仰いだ人としても知られています。尾崎は「大津順吉」を読んで感銘を受け、これが小説家を志すきっかけとなりました。

「それは、私流の文学開眼ともいふべき出来ごとだつたのだ。(略)「大津順吉」に逢はなかつたら、私は「小説家」になつてゐたかどうか疑問である。」(あの日この日)尾崎一雄 講談社

大正9年に発表された本作品「真鶴」は、「大津順吉」「清兵衛と瓢箪」「城の崎にて」「赤西蠣太」「和解」「小僧の神様」

「焚火」など文学史上の記念碑のような優れた中・短編作品のひとつに数えられています。主人公の真鶴に住む男の子が、弟と二人で、小田原に下駄を買いに出掛けますが、下駄をかうはずのお金で、水兵帽を衝動買いしてしまします。

そして、小田原の街角で出会つた、法界節の一行の女性に恋心を抱き、一行の行くところへどこまでも、弟の手を引いてついて行きます。

夜が迫り家路に着きますが、真鶴までまだ一里(約4km)というところで、二人は熱海行きの軌道列車(軽便鉄道)に追い抜かれます。弟の「今日の法界節が乗っていた」という言葉に、少年は自分の胸の動悸を聞くのでした。

数ページの小編の中に、小田原の町中、二宮神社、夕暮れの小田原の海岸や、軽便鉄道に沿って早川から根府川、そして真鶴に至る海辺の道が登場します。

〔法界節〕
明治24、25年ごろに流行した清楽に基づく俗謡。「ホウカイ」という囃子詞が名の由来。法界屋と呼ばれる2、3人の一組が、月琴や胡弓を奏でながら流して歩いた。

このコーナーでは、映画・絵画・写真・小説・詩などの作品に登場する小田原を紹介しています。小田原が扱われている作品をご存じでしたら、市広報広聴室までお知らせください。

輝く小田原人

会話のキャッチボールが大好き

宮内 亜弥子^{みやうち あやこ}さん

フリーアナウンサー（市内在住）



箱根町生まれ。「圭三塾」第9期生。TBS系「笑顔がいちばん!」プレゼンターレション、千葉テレビ「朝まるージャスト」キャスター、CSファミリ劇場「ファミリ探検隊」司会などで活躍中。



公開ラジオ番組で司会をする宮内さん 故・高橋圭三氏を囲んで(左端が宮内さん)

小さいころから自分が話すと、不思議とその場の雰囲気になごむのが面白かった、という宮内さんは、笑顔が素敵な見るからに天職のアナウンサー。でも「確固たる信念がなければ、夢は実現しない。」という芯の強さが、その笑顔に自信を与えているのは間違いない。

実家がお蕎麦屋さんで、小さいころからお客さんの前に出ることも多かったせいか、自分が話すことでその場になごむことに早くから不思議な魅力を感じていた宮内さん。しかし、アナウンサーを目指しての就職活動は順風満帆とはいかなかった。そんなとき、アナウンサーを志す若手を無料で指導してくれる故・高橋圭三さん主宰の「圭三塾」を知り、見事合格。フリーアナウンサーのレッスンが始まる。「フリーの仕事は、数百人がオーディションを受けて一人採用、ということもある厳しい世界。でも、初めてのレギュラー番組が大学卒業の4月に決まったとき、就職した友だちと同じ月に仕事が始められ、内心ほっとしました」。

少しずつレギュラー番組も増え、

ついには念願だった司会の番組を持つこともできた。

東京などでの仕事が多い今も、小田原の実家から電車通勤している。「国府津で海が見えると安心するんです。早朝の上り電車の窓からも国府津あたりで真っ赤な朝日が見えると、とても得した気分になります。それに、小田原は何かあれば近所の人や同級生がすぐに集まるし、親もお店のお客さんも応援してくれるから、落ち込んでもまたガンバロウという気になります。結局、温かく迎え入れてくれる人がいる小田原が好きなんです」。

今一番興味があるのはラジオのパーソナリティー。また、「できれば作る側にも参加してみたい」と、とても貪欲。とにかく仕事の現場が大

好きだという。

「華のある仕事と思われがちですが、まめに新聞をチェックしたり四季の移り変わりに敏感にアンテナを張ったりする努力が必要です。朝早く来て何倍も仕事をするスタッフがいることも忘れないようにしたいですね。アナウンサーを目指す人は多いけれど、すぐあきらめる人も大勢います。最初から才能がある人なんてほんの一部。経験を積むことで上手になるから、もし、本気で目指すなら途中であきらめないでがんばってほしい」。取材を重ねて相手の心の内側が引き出せたときが何よりうれしい、という宮内さん。小田原の生活をバネに活躍のフィールドがますます広がることを期待せずにはいられない。

と訪ねてみてはいかがですか。

「小田原とれたて倉庫」は平成13年3月に開設されたインターネットショップで、「ありきたりでない小田原」をモットーに、かまぼこ、梅干、干物といった名産品ばかりではなく、無農薬レモンやミカン、はちみつ、さらにオリジナル商品「小田原朝ごはんセット」など「こだわりの商品」を全国に紹介・販売しています。このたび、「実際に手にとって買える所はないの?」という利用者からのご要望にお応えし、実店舗を開店しました。

店頭には並ぶのは、原則としてインターネットショップで販売している商品が中心で、それぞ

れの商品に生産者のこだわりをパネルで表示するなどして、地場産品の振興とPRに努めます。店内には喫茶施設も備えているので、ぶらりと訪ねてみてはいかがですか。



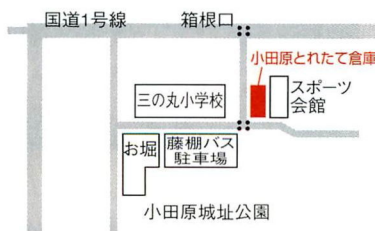
問 公益事業協会 ☎21-5711
店舗 ☎22-6855

場所 藤棚バス駐車場向かい
(旧三の丸売店)

営業時間 10:00~17:00

URL <http://www.rakuten.co.jp/toretate/>

ネットを買う? お店に行く?
インターネットショップ
「小田原とれたて倉庫」の
実店舗がオープン!

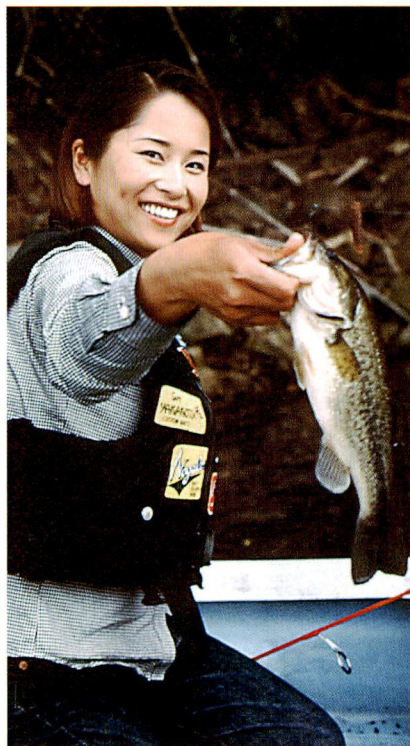


バス釣りの聖地、芦ノ湖がんばれ

プロバスフィッシャー いしいそのさん(本町)

大会などでいろいろな場所に行きますが、芦ノ湖のように美しい景色はなかなかありません。豊かな緑と富士山、水もきれいすぎるくらい。生まれも育ちも小田原ですが、釣りを始めてから、海も芦ノ湖も近いこのまちの良さを実感しています。芦ノ湖はブラックバスが日本で最初に放流された湖で、バス釣り発祥の地。愛好家なら一度は行きたいと思うような場所なのですが、釣りに来る人が最近減ってきていて残念ですね。

1年半前、小田原城のお堀のバスを芦ノ湖に帰すという試みに参加しました。バスには「生態系を乱す害魚」のイメージがあるかと思いますが、日本中でバスが増えているのは釣った人が勝手に放すからですし、魚の住む環境が悪くなっているのは、木を伐採したり水質を汚染したりしている人間のせいなのではないでしょうか。だから、小田原市や芦ノ湖漁協がバスのことを考えて対処してくれたのは、小田原在住のバスプロとしてうれしかったし、鼻が高かったんですよ。



心におみやげ、
見つけて小田原。

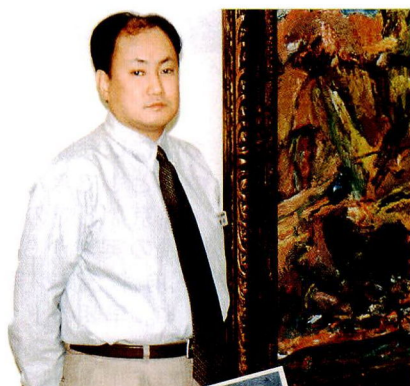
魂のこもった絵の生まれた場所

真鶴町立中川一政美術館主任学芸員
新井人志さん(国府津)

「海があり空気のいい場所に住みたい」と望んでいた両親が、退職後に大阪から移り住んだのが真鶴。私は別のところでサラリーマンをしていましたが、以前から絵に携わる仕事をしたかったので、ここで学芸員を募集していると聞き、やって来たんです。

中川一政先生は、真鶴を拠点に、油彩・岩彩(日本画)・書など、多くの作品を創作されました。どれもエネルギーで、見る者に力を与えてくれます。絵に限らず、小さいころに魂のこもった芸術作品に触れていると、大きくなってきっと役に立つと思いますので、ぜひ子どもたちに見てもらいたいですね。

真鶴は小田原藩の影響を受けているし、真鶴半島の松も小田原から来たものだそうですね。今は国府津に住んでいますが、古墳があったり、駅周辺にクラシックな建物があったりして、歴史の積み重ねの奥深さや、歴史的なつながりを感じられて楽しいです。



小田原を拠点に西さがみエリアで活躍する人たちに、
お気に入りスポットを聞きました。

このまち大好き

目の前に広がる紺碧の海

県立湯河原高等学校演劇部

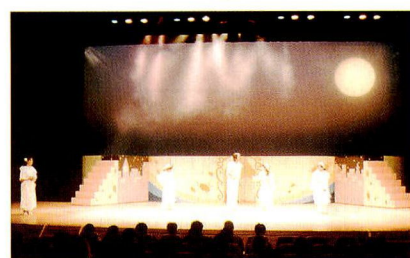
新入生歓迎ハイキングで幕山公園に出かけるのと、夏休みの最初と最後に吉浜海岸でバーベキューをするのが、演劇部の伝統です。学校から海が見えるのがとても気持ちいいし、4月初めの武者行列ややっさまつりにも毎年参加しているし、気がついたら湯河原にすっかりはまっていますね。

演劇の魅力は、普段と違うことが舞台上でできること。公演が近づくと、準備で帰りが遅くなったり、広告をとりにお店を回ったりと大変なこともありますが、みんなで協力してやりとげたという達成感は、何にも代えられません。

湯河原高校演劇部は、西相地区大会で9年連続最優秀賞を受賞し、平成10年には関東大会でも優秀賞をいただきました。先輩たちの築いた伝統や実績を誇りに思いながら、念願の全国大会出場を目指して毎日がんばっています。



左から、2年吉田真さん(酒匂)・2年関野彰彦さん(中里)・3年小原早春さん(本町)・3年水野久美子さん(中里)



第28回定期公演「MOON〜微笑みを月に〜」より

県下でも有数の実力を披露!

第29回定期公演
「With the spring wind
春風にのせて'02」

日時 6月23日(日)12:00開演
場所 松田町民文化センター